

と云傳へり

一八幡宮

彼より東の山トあり、館とて敷き、社
とて社領に石二斗七升、又合地方、高沢村
馬平、寛永三年、饑失せしとて

一八幡宮

登川系といふ所あり、社領が一人、社敵二人
あり、姓古ハ西八幡と稱し、河田川村の八幡宮の
西なる由とて
國司も崇敬ありしと云傳へり

一小國館尾山

伝正云、小國因幡と云し、人語伝志よりし、取
なりといふ、尾山記曰、その上出羽守、兼光
孫を巧し、元月の傳をなづけ贈し、て志を
兼光よりし、志め、密に義術を教んと謀る
武家の臣佐、後傳中といふもの、獨志を義術
は、常て義勝を密に思ひ、世に吾輩士を流して、同
郡の士、小國因幡より、送るをり、義術計、而
は思ひて、一兩年を計り、秘に後出奔あり
し、を尾山おのつり、義光の子は入尾浦
の堀代より、言上より、中とて、義光の子は入尾浦
義光の子は入尾浦